

垂水区医療介護サポートセンター ごしきまろくんの サポートセンター便り 第6号

発行:垂水区医療介護サポートセンター

住所:〒655-0038

神戸市垂水区星陵台4丁目4-37

垂水区医師会内

TEL: 078 - 785 - 1166 FAX: 078 - 785 - 1167

TAR

垂水区薬剤師会より「お薬相談シート」について

垂水区の医療介護サポートセンターの運営目的の中で、一番大きな役割が医療・介護関係者の連携推進だと思っています。垂水区薬剤師会も各種小委員会や在宅医療勉強会に、

また市民フォーラムの劇などに参加させて頂き、垂水区の多職種連携 推進の一役を担っています。

現在コロナ禍において、コロナ陽性患者の自宅療養者に対し、 往診医からの処方箋を受け自宅まで治療薬を届け、服薬指導を 行う薬局が垂水区に45薬局ございます。また、これらの薬局以 外でも、コロナ感染が恐くて病院・クリニックに診察に行けない 患者さんに対しても、医師の指示により、かかりつけ薬局として



(垂水区薬剤師会 会長 勢力 吉廣)

定期薬を患者宅まで届けることもできます。このように有事の時でも、薬局があることで 医療が地域の隅々に届けられ、薬の適正使用が続いて行われていく様に、垂水区薬剤師会 全体でさらに強化して取り組んでいるところです。

そしてこのたびは、「ごしきまろくんのサポートセンター便り」に在宅療養者の服薬管理を円滑にするための「お薬相談シート」を紹介させていただく事になりました。この「お薬相談シート」は、適切な服薬ができていない在宅患者について、ケアマネージャーや看護師等から かかりつけ薬剤師・薬局に対して情報提供して頂き、それぞれのケースで情報共有しながら、適切な薬物療法が行えるよう薬学的な提案や介入方法を相談し、解決していく為のツールとして使用していただくものです。

(例) 〇嚥下困難で服用できなくなっている

○残薬がたくさんある ○認知による服用困難等 薬について在宅患者が困っていることを「お薬相談シート」に記載して、 かかりつけ薬局に電話・FAXして下さい。(かかりつけ薬局が見つから ない場合は、乗水区落刻傾合に相談して下さい)独口市の方からまるある。



ない場合は、垂水区薬剤師会に相談して下さい)神戸市の方からも各あんしんすこやかセンターに配布されていますし、垂水区薬剤師会のホームページ上で「区民の皆様へ」→

「在宅療養者の服薬管理」からダウンロードできます(http://www.tarumikuyaku.org/)

今後高齢化が加速する中、在宅患者の増加によりますます適切な薬物療法ができない患者さんが増えると予想されますので、是非「お薬相談シート」をご活用して、かかりつけ薬局・薬剤師に相談して下さい。宜しくお願い致します。

一般社団法人 垂水区薬剤師会 会長 勢力 吉廣

お薬相談シート

在宅で療養される方の服薬に関する課題(服薬困難・残薬・飲み合わせ等)を早期に発見し、その状況を医師・薬剤師と共有しながら解決するためのツールとして「おくすり相談シート」が出来ました。詳しくは、垂水区薬剤師会(前頁参照)・神戸市ケアネット(介護保険サービス事業所向け情報項目/医療機関等の連携)の掲載ホームページでご確認ください。



お薬相談シート

令和 年 月 日
(事業所)
(氏名)
<u>発</u>
訪問看護師・クアスマジャー・その他(

利用者(在宅療養者)情報

FAX:

ふりがな								##			4	-					,		-F-/
利用者氏名								生年	70		年	=	•	月		日	(歳)
要介護度	申請中	/ 要	支援	1	•	2	/	/	更介語	蒦	1	•	2	•	3	•	4	•	5
疾患名称																			
医療機関名																			
(複数の場合は									Ē	主治	矢								
複数記載)																			
サービス利用	無・有	種類	訪問看	護	٠ [訪問	介護	• デ	ሰ ታፖ	• 7	` イサ	-t"	ι	٠ ح	の化	也()
生活情報	家族同	居・	日中	のみ	独	居	•	独居	•	そ	の他	3 ()

TEL:

FAX:

お薬に関する情報 ケアマネジャー等利用者を支援する方がご記入ください

様

	1	使用中のお薬手帳はありますか?	Yes · No · 不明 冊数: 冊
	2	2か所以上の医療機関にかかっていますか?	Yes · No · 不明
	3	2か所以上の薬局にかかっていますか?	Yes · No · 不明
利用者	4	主に薬の管理を行っているのは誰ですか?	本人 ・ 家族 ・ ホームヘルパー ・ 訪問看護師 ・ その他 ()
	5	薬の管理方法はどのようにしていますか?	本人任せ ・ お薬カレンダー ・ 薬箱 ・ その他 ()
情報	6	医師の指示通りに服用できていますか?	Yes · No · 不明
+IX	7	【6でNoと回答した場合】(複数回答可)	失念 ・ 嚥下困難 ・ 服薬拒否
		服用できない原因を選んでください	その他 ()
	8	残薬(余っている薬)はたくさんありますか?	Yes · No · 不明
	9	薬のことで、疑問や不安等お困りはありますか?	Yes · No · 不明
支援		支援者の方が訪問等をする中で、お薬について <u>お</u>	
		気づきになること、お困りのこと等があれば記入してく	
	10	ださい(自由回答)	
者			
1			

返信コメント

今回の情報提供にあたっては、

- □ ご本人・ご家族の同意を得ております。(
- □ 契約時の同意に基づいて提供しています

月 日同意)

返信者名:

かかりつけ薬局





年

新型コロナ陽性者の在宅療養支援(薬剤師)

【在宅療養者への薬剤を届けた体験】 薬剤師(調剤薬局)

神戸市は新型コロナが陽性で、保健所が入院必要と判断した中等症の患者は、C市民病院、N市民病院、N医療センターが担当している。N医療センターがカバーするエリアは、西区、垂水区、須磨区北部。本来ならば入院が必要であるがベッドの都合で自宅療養を強いられている患者に対し、N医療センターは電話診療を行い、必要な薬を薬局が届けるという仕組みになっている。

午前中に電話診療を行い、患者が配達を希望する薬局にFAXを送り、 当日中に薬を届ける。薬剤師会は薬剤の絞り込みを依頼した。 デカドロン錠4mg、タケキャブ10mg、アセトアミノフェン200mg (カロナール)、デキストロメトルファン15mg(メジコン)

垂水区に依頼があったのは2件。依頼文と処方箋がFAXで送られてきた。無症状・軽症の患者は、神戸市医師会の対応クリニックが電話診療をしていた。電話で届ける事を伝え、服薬指導をした。(第8回ケアカフェより)

研修報告

今年度も垂水区はオンライン研修を実施中

ZOOM

第8回 ケアカフェ 🎳

【テーマ】:「コロナ禍での体験を語ろう」

日時:令和3年7月31日(土)14:00~15:30 参加人数 21名 新型コロナウイルス陽性患者・利用者に対応した介護施設や訪問看護師、薬剤師等に話題提供を行っていただき、その合間に小グループに分かれ、「体験談」や「風評被害で困った事」等について、自由に話をしました。以下、話し合った内容についてご紹介いたします。

- 事業所内でクラスターになった場合、事業所内で欠員補充ができない場合に困る。
- 発熱者が自宅で抗原検査キットのチェックしたら陰性だった。キットで陽性だった人が、 PCR陰性だった。
- ガウン装着を近所の人に見られないように要望された。
- ≪アンケート感想より≫
- しっかりとした感染対策をすれば感染予防できる。
- ・以前のカフェで画面上でご一緒だった方が私が発言したことを 覚えていただいた。連携を続けていくことはやはり大事だと感じた。

Ment of the contract of the co



◎第34回 在宅医療勉強会◎

【シンポジウム】 多職種で考えるWithコロナ時代の フレイル予防

日時: 令和3年7月3日(土) 14:00~15:30

参加人数 21名

多職種7名の専門職をシンポジストにお迎えし、垂水区では初めてのシンポジウムを開催しました。最初に、垂水区医師会の山本博文先生よりフレイルの病気について、薬局からはフレイルチェック等、各職能団体や事業所のフレイル予防の取組を紹介いただきました。その後、シンポジストと参加者によるディスカッションを行いました。「フレイルに関する情報共有が出来てお

らず多職種で対処が出来ていない」という課題が抽出されました。

≪アンケート感想より≫

- 社会参加の機会を継続してもつ事は簡単ではない。
- ・ 多職種で違う視点での捉え方が理解できた。
- 医療機関に受診していない方を拾いあげていくのも課題の一つ











〇〇病院

∞第3回 垂水事例検討会∞

テーマ:「コロナ禍で面会制限がある入退院支援について」

日時: 令和3年10月9日(土) 14:00~15:30

参加人数 31名

コロナ禍での入退院事例を病院地域医療連携室より提供して頂きました。病院側からは入退院の流れ、ケアマネジャーからは入退院時の病院連携の流れを説明。病院側よりコロナ禍面会禁止の元では家族の意思確認が難しい事、入院連携シートの生活状況、個別性が役に立つ事をお聞きしました。その後小グループに分かれ事例(ロ内炎で食べられず脱水ADL低下の認知症高齢女性)を通して専門職が出来る事や事例の感想等など、自由に意見を述べ合いました。

≪グループでの話し合い≫

- ・家族の見解、病院の見解、ケアマネの見立てが違う事が多々ある。コロナ禍で家族との関係作りがより難しくなっており、情報共有が大切。
- ・入院連携シートのFAX時は電話もしている。・医療と介護の連携+医療と医療の連携も必要。

≪アンケートより≫

- コロナ禍で苦労して退院調整されている事大変だったと思います。連携を一緒に考えていきたい。
- ・病院と在宅のもっている患者・利用者情報に乖離が生まれることはあったと思うが、コロナによって よりその乖離が大きくなっているというのを事例を通して実感した。
- ・在宅生活が入院連携シートから少しでも見えるように記載したい。日頃から状態把握を家族、事業所、 主治医間と連携していく事が大切と思った。 ・コロナ禍での情報共有の難しさと大切さを感じた。

編集後記:

ようやく緊急事態宣言も解除されましたが、医療・介護の専門職の皆さんはまだまだ落ち着かない日々を 過ごされているかと思います。パンデミックが終息し気軽に対面で話しが出来る日を心待ちにしています。